

視覚障がい者に関するアンケート調査まとめ

J R 蕨駅における視覚障がい方の線路転落事故を受け、健常者、障がい者が安心して過ごせる街づくりを研究テーマとして取り組みました。また研究の一環として、アンケート調査を行いました。以下に結果を報告いたします。

アンケートにご回答いただいた皆様、どうもありがとうございました。

アンケート集計（3 / 2 5 時点） 103名

回答者の年齢層	
年齢（代）	人数
10	21
20	8
30	1
40	13
50	30
60～	30
計	103

生活の中で、視覚障がい者と接する機会はありますか。	人数
ある	59
ない	44

「ある」と答えた方に伺います。その場所と時間帯を教えてください	
場所	人数
視覚障がい者の利用施設	6
店内（スーパー等）	12
公共交通機関	69
学校（講演会等）	3
道路、歩道	39
その他（友人が視覚障がい者である 他）	7
時間帯	人数
9 時以前	36
9 時から 1 8 時	57
1 8 時以降	8

学校や公民館などの施設で、視覚障がい者の講演を視聴したりアイマスクなどを用いた実習を経験したりしたことがありますか。	
ある	32
ない	70
覚えていない	1

皆様と思う、視覚障がい者の歩行時に危険なことは何ですか。	
スマートフォンを操作しながら歩く歩行人	73
放置自転車や駐車中の自動車	64
段差や石ころなどの悪い足場	57
走行中の自転車	46
電信柱	25
その他 ・ラッシュ時の人の流れ ・駅のホーム、ホームドアなしのホーム ・車道を歩道と間違えて車道を歩いていると思われる障がい者	13

皆様は、視覚障がい者がバスや電車などの公共交通機関を利用しやすくなっていると思いますか。	
ある	51
ない	51

ある」と答え方に伺います。それはなぜですか。	
駅員や乗務員が乗降者の際に視覚障がい者を補助するところを見たことがあるから	34
視覚障がい者を周りの人が手助けしているのを見たことが	14
スロープやエレベーターなど施設の設備が整っているから	25
その他 ・周囲の意識が変わってきている ・音声でトイレの案内をしている ・点字表示をよく見かける ・点字ブロックの整備が進んで	4

視覚障がい者が出勤するために外出する場合は、移動に必要な情報提供（代読や代筆など）をする同行援護のサービスを受けることができます。そのことをどう思いますか。	
問題である	93
問題ではない	6
その他（そこまで考えたことがない 他）	3

「問題である」と答えた方に伺います。それはなぜですか。	
複数の用事を外出時に行う際に利用の仕方が難しいから	27
視覚障がい者が、人と接する機会を制限するものだから	46
視覚障がい者の経済的な自立を抑制するものだから	45
その他（安全に生活する支援が届いていないから 他）	5

「問題ではない」と答えた方に伺います。それはなぜですか。	
特定の目的以外では多くの場面（買い物や通院など）で同行援護を利用できるから	1
白杖や盲導犬を利用して単独歩行する方法もあるから	4
親族が外出時に同伴すればよいから	0
その他 ・仕事のハンデは認めて、社会的なスタンスを定める努力をするべき ・視覚障がい者をその場の人たちでサポートする、朝にも見かける	3